

イオン1%クラブ アセアン大学生環境フォーラム 2012 の体験談

所属：工学部 電気電子工学科 4年

派遣先国名：日本

プログラム名：イオン1%クラブ アセアン大学生環境フォーラム 2012

プログラム期間：事前研修：11/3

プログラム：11/23～11/30

プログラムの概要

本プログラムの目的を簡単に言うと、「環境に対する理解を深める」「友達を作る」ことである。今年は、インドネシア、タイ、日本、ベトナムの4か国からそれぞれ24人、計96人が本プログラムに参加した。

以下に、事前研修、ディスカッション、その他（講習・観光）の概要を示す。

事前研修の概要

事前研修は、11/3（土）、11:30～17:30、千葉市にあるイオンタワーにて行われた。内容は、自己紹介、プログラムに関する説明、ケーススタディのディスカッションであった。ケーススタディのディスカッションは、各ロールに分かれてのディスカッション、その後、各ロールの意見をまとめて発表、という流れで行った。なお、ケーススタディの設定は事前に与えられている。また、ディスカッションは日本語で行った。（去年は英語だったらしい）

ディスカッションの概要

今年のテーマは水質保全である。そのため、ケーススタディの内容も、水質保全をテーマにした内容となっている。

ケーススタディの設定は次の通り。

「イオン湖という湖があり、そのまわりに3つの市がある。現在、3つの市の下水を1つの下水処理施設で処理しているが、人口増加に伴い、あと10年足らずで、排出される下水量が下水処理施設の処理能力を超えてしまう。そのため、新しい下水処理施設が必要なのだが、建設地の候補が、森林部にしかなく、下水処理施設の建設には森林伐採が必要となる。以上の状況下で、我々は今後どのように行動すべきか？」

ディスカッションは、政府、事業者、市民に分かれて行う。最終的には、チームとしての意見を1つにまとめ、プレゼンを行う。

ケーススタディでは、いくつかの点があいまいであり、あいまいな点は自分たちで勝手に設定してよい。だがそれでも、具体的なデータはほとんどない。そのため、ディスカッションは主に定性的な話となる。

最終プレゼンまでのチームの状況

各チームは、インドネシア、タイ、日本、ベトナムから各4人、計12人で構成される。私の役割は政府であった。私のチームは、基本的にみんな仲が良かったため、終始おだやかに議論が進んでいった。私自身はというと、英語力不足のため、ディスカッションについていくのが精一杯で、なにかを提案したり発言したりすることができなかった。多くの場合、なんらかの作業の手伝いを行っていた。この点は悔やまれるので、今後の課題としたい。

プレゼンは発表内容を劇に仕立てて行った。劇の音楽やストーリーもチームのメンバーが用意したものであり、この点では、他の学生たちをすごいと思った。劇の準備等もそれほど切迫することなく終了した。

その他の活動（講習・観光）

プログラムの半分以上は講習と観光であった。講習では、NPO 法人のアサザ基金の話、滋賀県琵琶湖政策課による話、湖南中部浄化センター視察、などを行った。また、観光では、東京ディズニーランド、比叡山延暦寺、南禅寺などを訪れた。

感想

今回のプログラムは、私にとって初めて英語で話す機会であったため、最初は非常に緊張した。最初のうちはほとんど英語が聞き取れなかったが、日にちが経過していくうちに少しずつ聞こえるようになった。また、アジアの学生が親切で、聞き取れない私に気を使って、ゆっくり話してもらうこともたびたびあった。わかってはいたが、今後、真剣に英語を勉強する必要性を感じた。そのためにも、これから、定期的に本プログラムのような国際交流のプログラムに参加してみようと思う。

今回のプログラムで最もよかったのは、自分の大学以外の友人、それも、日本だけでなく外国の友人ができたことである。自分と違う価値観や行動パターンを持つ友人を持つと、その友人からいい刺激をもらえるので、その意味でも、本プログラムに参加してよかったと思う。